

留学先決定に至るまでの経緯

2014 年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生
東京大学大学院 工学系研究科 社基盤盤学専攻 修士課程
南出将志

2014 年の秋より、Pennsylvania State University の Dept. of Meteorology (気象学科) の博士課程に進学予定の南出将志と申します。留学を前に、このように出願にいたる経験と感謝の意を示すことのできる機会をお与え頂き大変光栄に思います。拙文ながら、どうかお付き合い下さいませ。

2013 年の 4 月、まだ桜の残る武道館にて、今まで経験したことのない絶望感と共に大学院生活は幕を明けました。学部 4 年生の冬に出願した米国大学院はことごとく不合格となり、図らずも東大大学院の入学式に出席することになった私は、おそらく会場の誰よりも浮かない顔をしていたことでしょう。米国大学院出願に際して周囲の方々から頂いていた力添えはあまりにも多く、それでも自分の実力が及ばなかったこと、人々の厚意に答えられなかった自分を受け入れることができませんでした。「なぜ自分はここにいるんだろう」という疑問が頭をかすめながら、総長のタフでグローバルな話をぼんやりと聞いていた記憶があります。

2013 年度の米国大学院の受験は、私史上かつてないほどに、「自分の力ではできないことが少ない」挑戦でした。指導教官に口添えを頼まないと、向こうのほとんどの教授とはコミュニケーションをとる機会すら与えてもらえませんでした。奨学金という自分で稼いだわけではないお金がアプリケーションの印象を劇的に向上させました。先輩方の体験談と、優しい、とても優しい SOP の添削がなければ、まともな出願書類すら仕上がらなかったでしょう。TOEFL の勉強をしようと思えば、Writing の良し悪しが分からず、Speaking は練習することさえかなわず、帰国子女の同期に練習相手をお願いしました。見通しの甘い私に対して、あえて厳しい意見を聞かせて頂いた研究員の方の言葉にハッとし、ロールモデルとして憧れに具体的な形を与えてくれた先輩方に甘え、たまに会うと様子を聞いてくれる後輩達に励まされていました。

こんなにも力強いサポートを頂いたにも関わらず、合格叶いませんでした。

この結果は(今更ながら)私にほとんど実力が伴っていないことを強く実感させることとなりました。ただただ恥ずかしく、情けなかったのを覚えています。当時の強いモチベーシ

ヨンであった「フィリピンのような惨劇¹をもう二度と見たくない」という言葉は、実現可能性の伴わない夢物語となっていました。そうして一通りの他人任せな動機を抱く自信を失った後に、それでも私を突き動かしたのは、心の底から湧き上がる知的な好奇心でした。地球上でもっとも危険かつ頻繁に発生する台風のダイナミックな力学。検証不可能な将来を予測する技術の発展。有史以来ずっと人類と関わり続けていながら、まだまだ謎も多い台風に魅せられた人々の探求が私を魅了しました。（彼らは時に航空機で台風上空に突っ込むというクレイジーな観測までやってのけます。台風を上から見るとは何と羨ましい…！）諦めきれない知識欲が、再び私を米国大学院のあまりにも魅力的な環境に向けて歩ませ始めました。

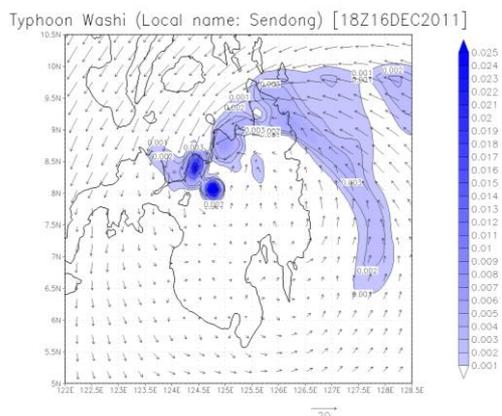


図 1 当時の私を救った台風シミュレーション図

ご支援頂いている船井情報科学振興財団の方々を始め、様々な迷惑と心配をおかけしながら敢行した米国大学院再受験を、変わらず、あるいは新たに応援頂いたみなさまには感謝の念が尽きません。そして、一度は諦めかけた「ご恩を返す²」ためのスタートラインに立てたことをとても幸せに感じています。今後とも、どうか暖かくお見守り下さいますようよろしく願いいたします。

南出将志

Appendix 1. 出願時の詳細

今後、米国大学院への出願を考えているの方々にとって最も有益な情報と成りえるのは、「そのくらいのスコアで、どのくらいの学校に合格した」という一例だと思います。そこで、2回受験しているというメリット(?)を活かし、出願時のスコアなど詳細をまとめてみました。

¹ 2012年12月、台風 Washi (Local name: Sendong) の襲来によってフィリピンミンダナオ島北部は壊滅的な被害を受けました。筆者はボランティア活動に赴き、井戸設備の建設などを行っています。そのあまりの悲惨さから、台風被害をもっと正確に早く予測したいと考えようになりました。

² ここでは、応援して頂いた気持ちに答えることを指しています。具体的には、台風の理解向上を通じて、防災体制の改善に尽力するという形をとります。

【一回目の出願時（2012 年末）】	【二回目の出願時（2013 年末）】
GPA : 3,75 TOEFL : 100(R26, L28, S22,W24) GRE : V146, Q167, AW3.0 奨学金 : 無し (後日 JASSO より採用通知が届くも、すでにほとんどの大学院が不合格。) 実績 : 全く関係のない分野の論文が 1 本、 全く関係のない学会発表も 1 回	GPA : 3,78 TOEFL : 100(R26, L28, S22,W24) GRE : V147, Q168, AW3.0 奨学金 : FOS 実績 : 左記 + 英語論文×1, 日本語論文×1, 国際学会発表×2, 国内学会発表×2 投稿準備中の英語論文×1

Appendix 2. 受験結果

結果はこの通りとなりました。

【一回目の出願時（2012 年末）】	【二回目の出願時（2013 年末）】
× MIT (EAPS) × MIT (Civil Eng.) × Princeton Univ. (Civil eng.) × Columbia Univ. (EES), × UC Berkeley (EPS) × Stanford Univ. (EESS)	○ Pennsylvania State Univ. (Meteo.) ○ Miami Univ. (RSMAS) × MIT (EAPS) × Princeton Univ. (AOS) × Columbia Univ. (EES), × UC Berkeley (EPS) × Stanford Univ. (EESS)

Appendix 3. 留学先

【Pennsylvania State University / Dept. of Meteorology】

日本ではあまり知名度はありませんが、東海岸最大規模の州立大学です。非常に珍しく” Meteorology” 単体で一つの学科を形成しており、全米屈指の気象研究機関の一つです。(実はまだ行ったことがありません。田舎で何も無いとてもきれいなキャンパスのよう期待が高まります。)

指導教官は Prof. Fuqing Zhang という方で、アメリカ気象学会において今年 2014 年に Banner Miller 賞という熱帯気象研究唯一のタイトルを受賞した今非常に勢いのある研究者です。彼のもとで、ハリケーン予測に関する研究を行う予定です。日本の研究者に彼を知っている方も多く、誰もが口をそろえて「非常に優秀で、かつ学生のことを親身になって考えてくれる人格者」と評していたことが留学先決定の決め手となりました。